

ギネスブックとミシュラン

いつのころからか、「ギネス記録」と称して所謂素人が自慢の自己記録を誇示するようになった。「ギネス記録」が熱く騒がれるようになったのは、ごく最近のことであり、20年ほど前ダブリン市内のギネスビール工場を見学した時には、工場内ですら大して話題にならなかった。あまりルールとか、規約に縛られない点がいい。興味がありそうな事象なら申請して証明され、証人がいれば何でも認可してしまう、その大判振る舞いところがまた喜ばれる。

一方の「ミシュラン」はいまでは格式が高く、食の道のプロを対象にしている、評価が下がったと自信を失くしたレストランのシェフが自殺をしたと喧伝されるほど、いまや馬鹿げているくらいその権威と名誉は上がってしまった。偉ぶってはいるが、スポンサーが食とは直接関係のないタイヤ会社である点が面白い。

ところでわれわれ凡人には「ミシュランの☆」を獲得できる保証はまずないが、前者の「ギネス記録」なら、自分の勲章、或いは実績として自慢してもよいのではないか。そう考えてギネスにこそ申請しないが、自分なりの「個人ギネス記録」というものを誰憚ることなく「図解」で表示して、暇そうな友人に差し上げては、話題を提供している。

海外で強盗に襲われ時計を奪われたこと、ベトナム戦地で危険に遭遇したこと、ヨルダン軍に身柄拘束されたこと、トルコ大地震に遭遇したこと、南ア鉱山の地下 1500mまで潜ったこと、深夜トンネル内で轢死体を処理したこと、ドラキュラの墓に参拝したこと、ダイアナ王妃の死を前日に知ったこと等々、ギネスは認めないだろうが、自慢したいことはいくらかもある。私の「図解」表には 40 を超える自己満足の私製「個人ギネス記録」が記載され、みんな興味を抱いてくれる。それが一層意欲を駆りたて、喜びをもって新たな記録作りに挑むことになる。これからの人生の楽しみのおまけに、皆さんも「個人ギネス記録」へ挑戦してみてください。

(近藤)